



第2次長久手市観光交流基本計画(概要版)

平成27年3月改訂

1 長久手市観光交流の可能性

1 「観光交流」の視点と考え方

- 訪れた先の人や文化に触れ、体験し、遊ぶ「体験型観光」への観光ニーズの変化
- 「もの」による地域ブランドづくりと、「地域イメージ」のブランド化による観光振興
- 「異日常的な資源」といわれる、来訪者から見ると日常の風景とは異なる、珍しい・体験したいと思わせる観光資源
- 地域経済が稼ぐためのポイント～地域産品、宿泊客の獲得、リピーターの確保～

2 長久手の立地特性から「観光交流」を考える

長久手市の特性

- 大都市圏(名古屋市)に隣接したまちであり、周辺市と連携した「広域観光」を目指します。
本市はその結節点(ハブ)としての機能を持つことで、広域観光のイニシアチブを保持します。
- 豊かな自然環境、高層建築物がない開放感、学生が多くオシャレな店も多い「住みやすい街」、「若い街」というイメージを、観光資源(長久手オリジナル=ながくてスタイル)として守り育てます。
- 本市の豊かな自然環境と市民の取り組みを連携させ、「農」と「アート」と「健勝」で、「人」と「まち」と「仕事」がつながるまちづくりを進めています。

長久手オリジナルの観光交流を、長久手の2050年の姿を想定しながら考えます。

3 「観光交流」についての新たな視点

- ①観光交流資源を磨き、それらをつなぐ手段
→年間イベント共通のスタンプラリーを実施する
- ②点在する観光交流資源を回遊(体験)する手段
→リニモの駅で自転車をレンタルして、どのリニモの駅でも返すことができる
- ③おもてなしの心を生かした情報発信(ライフスタイルの発信)
→「長久手」を紹介、案内する“コンシェルジュ”をリニモテラスに設置する
- ④長久手の観光交流のあり方等を、市民に理解してもらい、積極的に参加してもらう

2 長久手オリジナルの観光交流とは

まず市民が楽しむ、それを市外からの来訪者が見に来るという仕組みづくりが、新たな長久手オリジナルな観光視点になります。

「ながくてスタイル」は
いい日常から生まれる観光交流

E日常
いい日常観光

豊かな自然
Ecology
自然環境

やすらぎ
Easy
やすらぎ

おもてなし
Experience
体験

3 基本理念

1 目標像

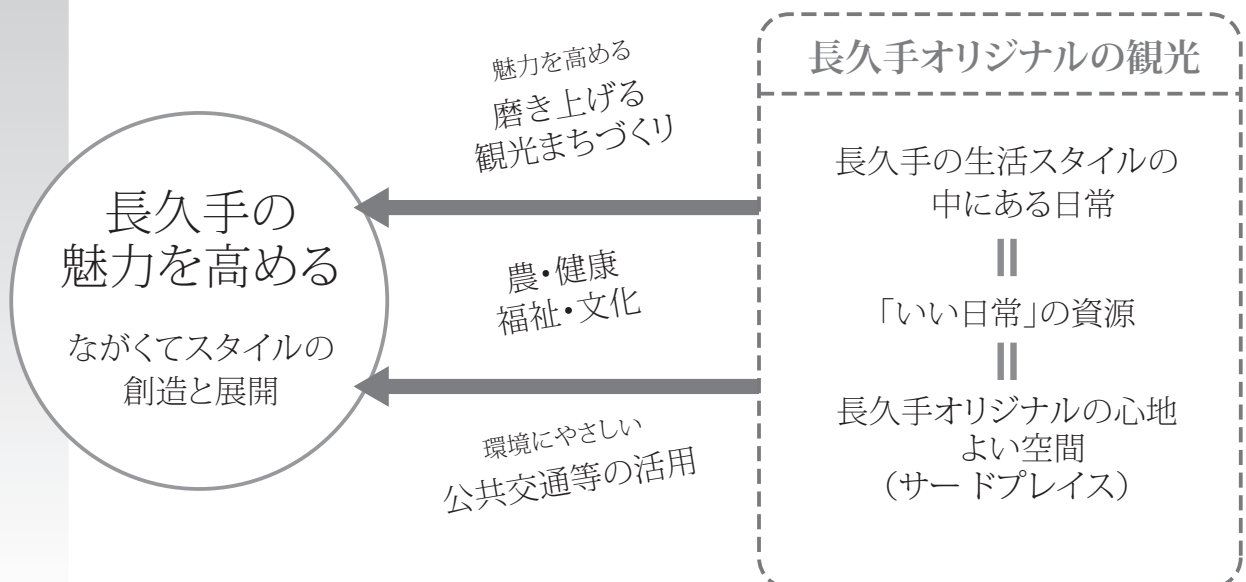
あったかいふれあいのある、居心地のいいまち長久手
“住んでみて! 訪れてみて! いいまちながくて”

2 推進理念

魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」

3 観光交流まちづくりの意義

本市で「観光交流まちづくり」を進めることにより、本市の魅力であり地域資源である「農」や「健康」、「福祉」、「文化」を発掘し、磨き上げ相互に関連づけながら、本市の魅力とオリジナリティを高めていきます。



観光交流まちづくりの基本方向

長久手独自のライフスタイル

おしゃれな店

田園風景のある暮らし

ゆったりした時間を過ごす公共空間

土や緑に触れる場所

健康と福祉の空間

アートのある暮らしと空間

オリジナルな観光資源

観光交流まちづくりの基本的な考え方

前提

長久手の日常
サードプレイス
「いい日常」

「農」「健康」
「福祉」「文化」
の取り組み

既存の
観光交流資源・観光交流
への取り組み

コンセプト

長久手のオリジナル性を活かした
「ながくてスタイル」創造による観光交流まちづくりの推進

市民 ▷

発掘・磨き上げ

◁ 来訪者

長久手オリジナルの魅力
+
「いい日常」
長久手独自の
ライフスタイル創造

既存の観光資源と長久手の取り組み
+
「いい日常」
を活かした
新しい観光交流の創造

「ながくてスタイル」の観光交流